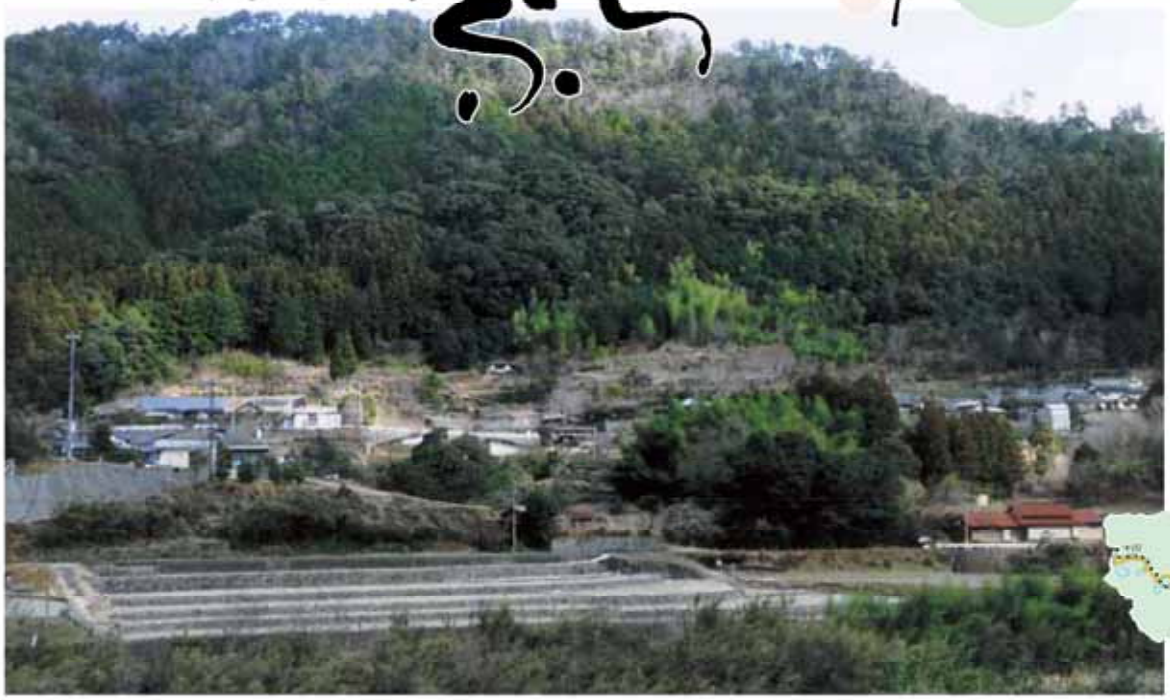
四万十町ぶら～り散策



木屋ケ内（こやがうち）

大正から梼原川の上流に向けて進路をとり、中の島公園を左に見るとすぐこの地に来る。南受けの斜面に家々が点在し、冬も夏も一日中陽のふりそそぐ所で、一面の茶畑が広がっている。その緑とたわわに実った黄金色の柚子のコントラストが迎えてくれた。真冬とはいえ真正面からの陽ざし、実に日向ぼっこをしたくなりそうな温かみの感じられる地区である。この地区も過疎化の波には勝てず、昔は50世帯を超す集落であったようだが、今は22世帯とのこと。「こんにちは、お布団干しですか。今日は暖かいですね」地元の人に話を聞いてみた。

自分たちは2人暮らし、人が減ってあそこもここも2人暮らしとのこと。このままでは集落がなくなると心配していた。「でもお正月はにぎやかでしたでしょう？」盆と正月は皆さん帰省するそうだ。帰れる古里があるということは大事なこと。都会に行っている子どもたちのためにもこの別荘（実家）を守ってやらねば、と遠くを見ながら話してくれた。確かに集落の前を流れる梼原川には沈下橋もかかり、川遊びにはもってこい。野に山に心を癒す条件の整った地である。

底地は地盤か

傾斜地を利用しているこの集落、昭和の南海地震、大丈夫だったろうか。「何ちゃあコタない。地が硬いもんよ」

言われてみれば納得。中の島公園も岩だらけ。向かいの山肌にもむき出しの岩盤が見られ、岩が邪魔したのか梼原川もここで大きく蛇行している。硬いことはある意味安心だ。「きれいな茶畑ですね」もうかると、キビや麦から茶に切りかえたが今はダメ。「柚子、ずい分古木ですね」樹齢100年はたっているという。「原種ですよ」とおじいさん。「柚子はもうかります？」「何ぼし残らん」だけど美しい景色を作っている。

柚子の100年木

町のうごき（12月31日現在）

	人口	前月比
男	9,440	-6
女	10,525	-4
計	19,965	-10
世帯数	8,832	-5

	出生	死亡	転入	転出
男	2	14	14	8
女	6	11	9	8
計	8	25	23	16

（12月中に届出）

四万十川の水質状況

	適正値(mg/l)	12月21日
リン酸	≦5.0	<0.1
硝酸	≦0.5	1.578
アンモニウム	≦5.0	<0.1
アニオン活性剤	≦1.0	0.15
科学的酸素消費量	≦10.0	<2.0

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス http://www.town.shimanto.lg.jp/ ●

※広報『四万十町通信』はホームページでも、ご覧いただけます。（pdfファイル）

四万十町通信 2010.2月号 Vol.47（毎月10日発行）
●編集・発行／四万十町企画課 ●取材・印刷／窪川印刷
〒786-8501 高知県高岡郡四万十町茂串町三番二号 ☎(0880)22-3124